

ジョジョの奇妙な冒険第四 部サイドストーリー Witch's customer

munechy

先ほどまでピンと張っていたシーツはその張りをなくしていた。

サトミは少し火照った体を冷まそうとシーツの冷たい所を探しながら、気づけばタバコの煙から遠ざかる様にベッドの端の方まで来ていた。

行為の後の幸福感に似た満足感・・・その余韻にも増した嫌悪感が自分に向いているのは、なんとなく続いているこの関係に甘んじる自分のせいだ。

「もう終わりにしようや」

男の提案の真意にうすうす感づいていたサトミはその一言で、呪縛から開放された気がした。

「そうね」

とつぶやき、そそくさと服を着て部屋を出る支度をしていると、イキナリ男は声を荒げた。

「テメーのその無感動な所がイラつくんだよお」

忠告というにはあまりに一方的な言葉にも異論は無く、サトミは概ね同意し、、、

「そうね」

と応えると、ため息を一つしてドアを閉めて部屋を出た。

ドグォ

という大きな音が、ドアを通して伝わり、灰皿でも投げたのだろうと容易に想像できた。

めんどくさがりな男が、裸のまま吸殻を拾う姿を想像し、こっけいに思えたが、サトミの口元はニコリともせず、凍てつく東北の夜の帰路に立った。

明日の今頃には美奈子と過ごすのだろうと思いながら・・・